

事業評価兼意見書まとめ

(1) 第7次総合計画前期計画の進捗評価について

①全体評価

回答者全員（8名）が「事業が適正に実施されており、評価が適当である」と評価。

②御意見

1	施策No.	102	施策名	保育・幼児教育の充実
	保育士・幼稚園教諭の資質向上のため「アドバイザー制度」が設けられているが、有効な事業と思われる。内容として「現場での実地指導」が挙げられているが、これにとどまらず資質向上のためのメニューを増やしてはいいかが。従来の保育園・幼稚園に加え、小規模保育事業所や子ども園等が多治見市には存在するが、それぞれ特色ある施設職員が学び合うことにより、多治見市の保育全般の質の面での充実につながると考える。			
2	施策No.	104	施策名	学校教育の充実
	運動が好きな児童生徒の割合が少ないのはどうしてなのか？という分析を細かくやっていった方がよいと思います。その部分から後々の健康的な生活をするということにも関わってきますので。			
3	施策No.	204	施策名	高齢者支援
	計画年度当初より、目標値を大幅に上回る実績で推移している。実績があがっていることは望ましいが、一方で相談体制等の逼迫の懸念はないか。次期においては、実績に応じた目標値の検討と支援の拡充が必要であると考えられる。			
4	施策No.	205	施策名	障がい者支援
	この件は、政策の柱全ての根本的部分にあたると考え、とても重要な案件であると判断しました。幼少期の育ち方は、大人になってからも人格の根本的部分を担う大切な要素であり、発達障がい者やその家族の受け皿として市全体が問題として捉え、迅速に対応していく必要があります。令和1年度より遅れが生じていると評価されていますが、特にこの施策は遅れることで多くのデメリットがあるように思います。現状をどのように捉え、なぜ策定に至らなかったのかを具体的に当事者である市民や家族などに広報してもらえると安心材料になるのではないかと思います。市への信頼が市民の安心安全に繋がります。			
5	施策No.	301	施策名	地場産業の支援
	陶磁器意匠研究所研究性の卒業時地元定着率に関して、評価シートの中からは定着率が伸びない要因および今後の方向性が見えづらい。既に要因を把握しているかもしれないが、定着した卒業生、定着していない卒業生にアンケート、ヒアリングを行うなど定着率向上に向けた取組みも必要と考えられる。また、年度ごとの研究生数の推移も参考指標として示すことができると良いのではないかと考えられる。			

	施策N o.	301	施策名	地場産業の支援
6	陶磁器産業と芸術・文化との接点は「デザイン」によって表現されると思います。その意味でも「意匠研」の役割は重要です。確かに、市税を投入している以上、「卒業生」の地元定着率が高いことは望ましいと思いますが、在校時における貢献指標の設定や、卒業後のネットワークの利用など、意匠研の蓄積した「人材」の活用指標は、地元定着以外にも想定する必要があると思います（但し、必ずしも定量的な指標にはならないかも知れませんが）。			
	施策N o.	305	施策名	観光振興
7	入込客数は、諸事情によって変動を受けやすいので、数字の未達成率を過度に意識する必要はないと思います。ただ、気になるのは、駅周辺が良い感じでにぎわいが創出されていくのに対し、その効果を市内へ波及させる視点が必要だと思います。例えば「本町オリベ」などへの「回遊性」を考え、駅を中心に歩いて回れるルートの提案？とか、考えられそうです。また、市之倉などへは「バス」などの誘導も必要かと思いますが、市内外の人々の交流を促進することも検討が必要ではないかと思います。			
	施策N o.	406	施策名	緑化推進
8	潮見の森については、素晴らしい公園なのに、市民の認知度は高くないと思います。幹線道路からの案内、付近の道路から見て入口の入りやすさはどうなのか？あの展望台から見る景色のすばらしさをもっともっとPRしてほしいです。			
	施策N o.	411	施策名	定住促進
9	この事業の目標値との関係で達成率は基準を来しており、何ら問題はない。しかし、今後の人口動態の推移からみて、「施策自体のあり方」がこれでいいのか、は別途議論が必要である。つまり、ハード整備や情報発信に留まるべきではなく、「ビジネスマッチング」同様に、移住希望者とコミュニティをマッチングさせ、コミュニティ・ビジネスが必要な可能な世代の流入も可能とする必要がある。現状の指標充足に満足することなく、新たな目標を立てていくべきであると思います。			
	施策N o.	411	施策名	定住促進
10	「住宅事情」による転入者数の増加に関して、住宅情報のほか、就労情報も重要と考えられるため、商工会議所、商工会なども含めた支援が必要といえる。			
	施策N o.	412	施策名	居住環境の整備
11	木造住宅無料耐震診断の利用件数については、言うまでもなく、承知されていると思いますが、知らない方が多いということです。そして、リフォームすることが前提のようなイメージがあると思います。			

(2) 第8次行政改革大綱の進捗評価について

①全体評価

回答者全員（8名）が「事業が適正に実施されており、評価が適当である」と評価。

②御意見

1	事業No.	2	事業名	発達支援センター「なかよし」「ひまわり」の統合
	要支援の子どもが増えている状況下、内容の充実とともに事業の推進をお願いしたい。当事業は多治見全市の子どもを対象としているが、特に「ひまわり」は立地場所がふさわしくないとされる。対象となる支援児には上や下に兄弟がいる場合が多く、兄弟の手当て（通園や同伴）をして笠原まで通うのは保護者にとって大きな壁である。センターの発達支援教室事業のみならず、日常的な相談場所としての機能も十分果たすことが出来るよう、保護者が利用しやすい場所を強く希望する。			
2	事業No.	22	事業名	職員の生産性の向上
	現状、国際水準から見て、日本の企業や組織の生産性の低さは、際立っています（大学も酷いですが）。その大きな要因が、コロナ禍で露呈した「デジタル化の遅れ」です。これは、働き方や職員の評価方法にも関わってきますが、効率的な業務の改善と、本来やるべき業務の選択と集中、成果指標などの生産性指標の検討など、この項目で掲げるべき（検討すべき）事柄は、行政全体に関わる大きな問題を含みます。ここで掲げるべきかどうかは議論が必要ですが、生産性に関する議論は大きな課題になると思います。			
4	事業No.	24	事業名	職員の市民対応能力の向上
	若い職員の方、年配の職員の方それぞれ対応の方法というか、市民から見ると違って見えて当たり前なので、それぞれの良さを活かしていけば良いと思います。来所された市民の方にアンケートを実施して高評価を得た方へは何かインセンティブを与えたりすることも考えると良いのではないかと思います。			
5	事業No.	62	事業名	採用試験方法の見直し
	将来の多治見市を背負う大切な試験なのに、どれだけ可能性豊かな希望者が一次試験で落とされているか。単なる人数減らしの一次試験にならないよう慎重に人柄も含めて判断できる一次試験にするか、もっとたくさんの人を一次で合格させる方が良いのではないのでしょうか。辞退する可能性も考えて受験者の背景も参考に。			
6	事業No.	69	事業名	状況等を見据えた組織の見直し
	多治見市は、計画行政が行き届いていて、総合計画の進捗管理や行政改革なども着実に実行されており、とても評価できると思います。しかし、その厳格な運用の副作用として、どうしても「縦に割れる」ことによる「隙間」が生れます。それを解消するような「組織」のあり方は、とても困難ではありますが、従来の縦型に「柔軟なタスクフォース」を入れていくなどの発想で、計画行政の厳格運用			

	と、柔軟かつ機動的な課題対応が可能な組織を目指して欲しいと思います。		
事業No.	－	事業名	全体
	多くの経費削減をすることで成果が現れていますが、実際に働かれている方達が経費削減を気にするあまり精神的なストレスを感じたり、業務が雑になることがないように本当に必要なもの、不要なものを今後も丁寧に見極めて欲しいと思いました。		

以上